

2025年3月期 第2四半期（中間期）決算説明資料

2024年11月7日

株式会社 **ダイセル**

1. サマリー情報

(1) サマリー

2. 最優先課題と戦略

- (1) 酢酸原料（一酸化炭素）プラントの安定運転
- (2) セイフティ事業 米国拠点収益性改善
- (3) ポリプラスチック POM、LCPの増産

3. 2024年3月期 第2四半期決算

- (1) 業績
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 事業概況
- (4) 連結貸借対照表
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書

4. 2024年3月期 業績予想

- (1) 業績予想/EBITDA増減分析
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 事業計画

5. 財務戦略

(1) 株主還元

6. Appendix

(1) Appendix

2025年3月期第2四半期 対前年同期

売上高	2,897億円 (+6.9%)
営業利益	316億円 (+18.8%)
EBITDA	513億円 (+22.5%)

- 前年同期に顧客の在庫調整の影響を受けたエンジニアリングプラスチックの販売数量増加や為替影響などにより、売上高・営業利益・EBITDAは増加。

2025年3月期 通期業績修正予想 対当初予想

売上高	6,000億円 (△1.6%)
営業利益	600億円 (△7.7%)
EBITDA	1,025億円 (△4.7%)
ROIC	5.9% (△0.5p)

- 一酸化炭素プラントの初期トラブルとその対策や、自動車生産の影響などにより計画未達。
- 引き続き、優先課題に取り組み、収益性の改善や在庫削減も推進するなど資産効率を高める。

株主還元

総還元性向40%以上に加え、
DOE（株主資本配当率）4%以上を設定
増配：年間配当60円/株（前回予想55円/株）
自己株式取得の決定

実質的な資金創出力の向上を株主還元へ反映

- 中間配当:**30円/株**(前回発表比**3円増配** 前期比**5円増配**)
- 期末配当予想:**30円/株**（前回発表比**2円増配** 前期比**5円増配**)
- 150億円、1,200万株の自己株式取得**を決定

最優先課題と戦略

- 酢酸原料（一酸化炭素）プラントの安定運転
- セイフティ事業の米国拠点収益性改善
- エンジニアリングプラスチックの増産

- 一酸化炭素プラントのトラブルに対し恒久的対策を実施し、使用する炭種拡大と、プラントの安定運転を確立。
- セイフティ事業における米国拠点の黒字化を4Qに実現。
- ポリプラスチック主力製品POM、LCPの増産を通じて収益を拡大。

最優先課題と戦略：酢酸原料（一酸化炭素）プラントの安定運転

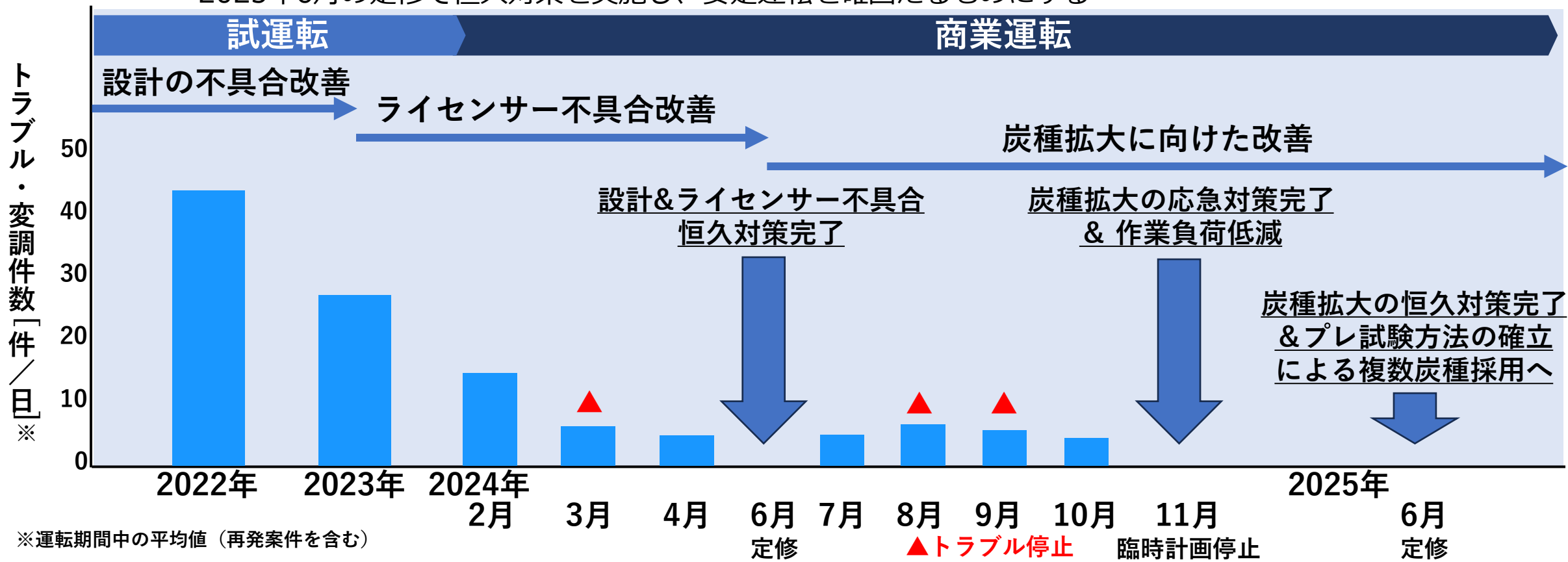
一酸化炭素プラントトラブルの恒久的対策を行い、使用炭種を拡大し安定運転確立

◇ 計画概要

- 使用する炭種拡大の開始を2025年7月予定⇒2024年7月に前倒し
- 2024年度のトラブル・計画停止による影響（91億円減益）は炭種拡大によるものが大半

◇ 特別安定化班の設置

- 設計・ライセンサー不具合改善は、2024年6月に対策完了
- 今後、トラブル特別安定化班により、2024年11月に炭種拡大に向けた応急対策と作業負荷低減を実施、2025年6月の定修で恒久対策を実施し、安定運転を確固たるものにする



足元の業績悪化要因である米国拠点の収益改善を最優先に取り組み、24年4Qに黒字化を実現

◇ 現在の状況

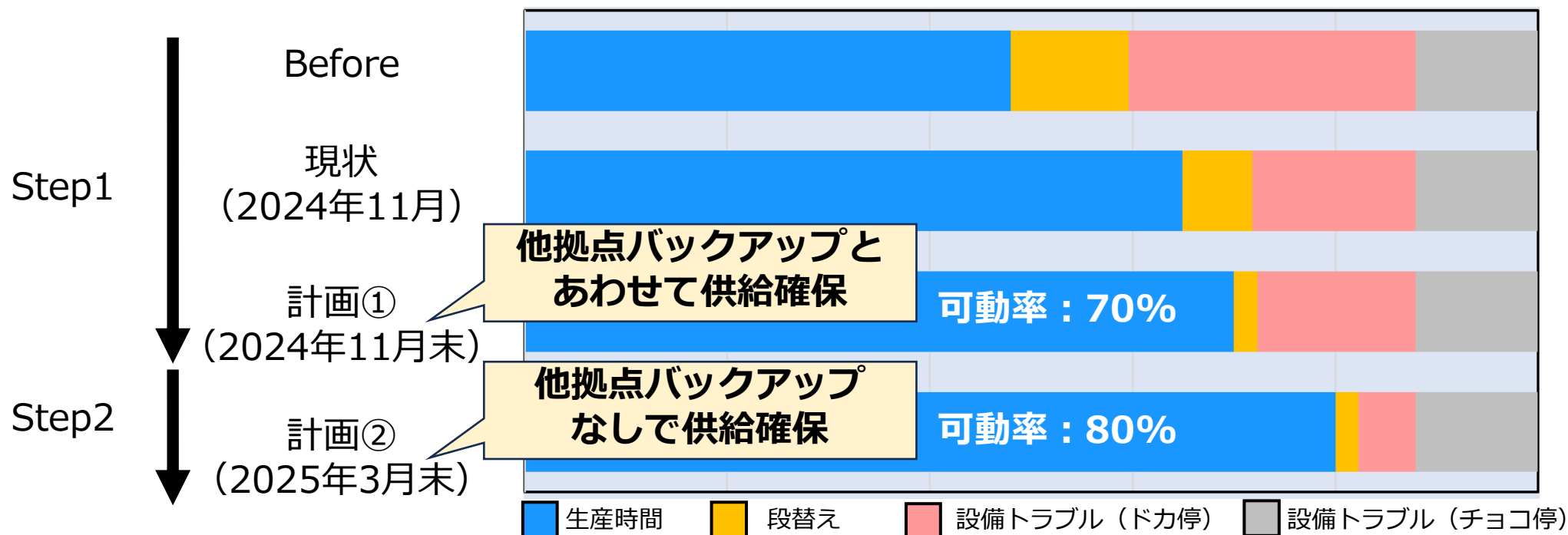
2023年度は、多発する設備トラブルへの対応や、段替えに多くの時間を消費

◇ 生産性改善に向けたアプローチ

Step1：段替え作業効率化（外段取り化）に取り組み、時間・要員を捻出

Step2：捻出した余力で計画保全を実施、ドカ停の発生を抑制し、黒字化

Step2以降：チョコ停も潰し込んで、さらなる安定操業と収益性改善



チョコ停：設備の小故障による停止状態。数秒から数分程度の停止。
 ドカ停：大規模な設備不具合による停止状態。数十分から数日の停止。

最優先課題と戦略：ポリプラスチック POM、LCPの増産

主要製品POM、LCPの増産を開始し、中国地域を中心とした拡販を実施

POM（ポリアセタール）

2024年度11月 DP Engineering Plastics (Nantong) Co.,Ltd（中国）にて新プラント9万ton稼働

◇需要と販売状況

- 主な用途：自動車、電気電子部品、産業機器向けなどの幅広い用途
- 市場成長率：グローバル・中国市場ともに、**年率平均3.0-3.5%程度**で伸長
- 中国市場の現状：日系自動車向けが不調なものの、**産業機器向けや非日系自動車の新規採用等、旺盛な需要が継続**
- グローバル販売戦略：新プラント稼働後、**8,000ton/年での伸長**を想定引き続き、自動車向けを中心に産業機器向けにも注力



◇生産戦略

- 工場移転に伴い、既存の6万tonプラント（ポリプラスチック引き取り分4.3万ton）を停止。
新たに9万tonプラント（ポリプラスチック引き取り分6.3万ton）を2024年11月後半に稼働予定**(実質+2万ton)**。
- 中国の旺盛な需要に対し、中国の国内生産能力のみで賄うことができず、マレーシア工場と富士工場などからも供給。
新プラント稼働後も、当該体制を継続。
- 中国での現地供給量を増やすことで、中国におけるPOM輸入品に対するアンチダンピングの影響を低減。
- 現在検討中の次期6万tonプラント建設によりマレーシア工場や富士工場の余力を、アジアや欧米に拡販。

LCP（液晶ポリマー）

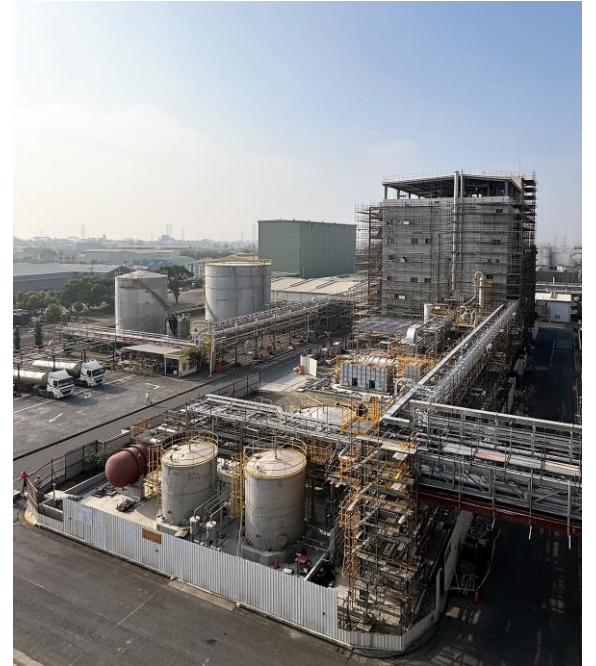
2024年度下期 Polyplastics Taiwan Co., Ltd. にて新プラント（5千ton）稼働

◇需要

- 主力市場（スマートフォンやサーバー等）は**年平均4～5%の成長率**
- **中国地域市場は世界のLCP需要の大半**を占め、年間30,000ton以上の需要

◇販売戦略

- 新プラントは主に中国地域市場向けであり、フル稼働を計画
- 新プラント稼働後、富士工場の余力を活用して新規ポリマー開発に注力
- LCPのトップシェア企業として新たな市場を開拓
 - 超薄型コネクタ向けの差別化材料として新ポリマーを投入し、ハイエンドコネクタ市場のシェア拡大
 - カメラモジュールの大型化、高機能化によりスマホ1台あたりのLCP使用量は増加、カメラモジュールグレードのさらなる改良によりシェアを維持・拡大。
 - ミリ波移行により拡大が期待されるLCPフィルムについて、採用実績に加え、高機能フィルム用新ポリマーグレードの投入によりフィルム需要を拡大。
 - 供給不足時に競合にシフトした車載向け電子デバイスについて、コスト競争力の高いポリマーをベースとしたグレードラインナップによりビジネスを奪還。



2025年3月期 第2四半期業績

単位：億円

	2024/3 2Q実績	2025/3 2Q予想※	2025/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,710	2,950	2,897	+187	+6.9%	△53	△1.8%
営業利益	266	320	316	+50	+18.8%	△4	△1.2%
経常利益	307	335	307	+0	+0.1%	△28	△8.2%
親会社株主に帰属する 中間純利益	298	300	321	+23	+7.7%	+21	+6.8%
為替レート USD/JPY	141	145	153				
EBITDA	419	520	513				

※2024年5月9日発表値

〈対前年同期〉

- 自動車部品関連は、日系自動車メーカーの認証不正問題の影響を受けたものの、前年同期に顧客の在庫調整の影響が大きかったことや、電子材料関連市場の需要が回復基調であること、為替影響などにより、売上高は増加。
- エンジニアリングプラスチックを中心とした販売数量の増加や、為替影響などにより営業利益・EBITDAは増加。
- ダイセルミライズの樹脂コンパウンド事業移管に伴う関係会社株式売却益の増加などにより、最終利益は増加。

〈対予想〉

- エンジニアリングプラスチックの拡販や、電子デバイス市場の需要回復の機会を確実に捉えた販売を実施したものの、日系自動車メーカーの認証不正問題による影響や、一酸化炭素プラントの初期トラブルの影響、アセテート・トウの出荷時期ズレなどによる販売数量の減少などにより売上高は想定より減少。
- コストダウンの積み上げや、原燃料価格上昇の価格転嫁などを実施し、減益幅を縮小。
- 投資有価証券売却益や関係会社株式売却益の増加などにより、最終利益は想定より増加。

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

単位：億円	売上高						
	2024/3 2Q実績	2025/3 2Q予想	2025/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	69	70	72	+3	+4.5%	+2	+2.6%
スマート	168	165	196	+28	+16.8%	+31	+18.8%
セイフティ	471	520	471	△1	△0.1%	△49	△9.5%
マテリアル	890	910	885	△6	△0.6%	△25	△2.8%
エンジニアリングプラスチック	1,087	1,260	1,245	+159	+14.6%	△15	△1.2%
その他事業	25	25	28	+3	+13.5%	+3	+13.0%
合 計	2,710	2,950	2,897	+187	+6.9%	△53	△1.8%

単位：億円	営業利益						
	2024/3 2Q実績	2025/3 2Q予想	2025/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	5	1	2	△3	△60.7%	+1	+89.0%
スマート	1	△5	2	+1	+61.7%	+7	-
セイフティ	△1	32	13	+15	-	△19	△59.0%
マテリアル	199	163	143	△55	△27.9%	△20	△12.0%
エンジニアリングプラスチック	61	126	152	+91	+148.2%	+26	+20.6%
その他事業	1	3	3	+2	+182.0%	+0	+14.7%
合 計	266	320	316	+50	+18.8%	△4	△1.2%

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

単位：億円	売上高						
	2024/3 2Q実績	2025/3 2Q実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	69	72	+3	+4.5%	△1	+4	+5
スマート	168	196	+28	+16.8%	+31	△3	+10
セイフティ	471	471	△1	△0.1%	△10	+10	+28
マテリアル	890	885	△6	△0.6%	△60	+54	+56
エンジニアリングプラスチック	1,087	1,245	+159	+14.6%	+130	+29	+58
その他事業	25	28	+3	+13.5%	+3	-	-
合計	2,710	2,897	+187	+6.9%	+93	+93	+156

単位：億円	営業利益							
	2024/3 2Q実績	2025/3 2Q実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	その他	営業利益の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	5	2	△3	△60.7%	△3	+1	△2	+1
スマート	1	2	+1	+61.7%	+22	△16	△5	+7
セイフティ	△1	13	+15	-	△7	+6	+16	+5
マテリアル	199	143	△55	△27.9%	△66	+24	△14	+30
エンジニアリングプラスチック	61	152	+91	+148.2%	+56	+19	+15	+11
その他事業	1	3	+2	+182.0%	+2	-	-	-
合計	266	316	+50	+18.8%	+5	+35	+10	+55

※ 比較のため、2024年3月期実績は、左記のセグメント変更を反映：TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）11

セグメント別事業概況（2025年3月期 上期）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）
メディカル・ヘルスケア	キラル 関連製品	<ul style="list-style-type: none"> キラル関連製品の需要は、海外を中心に堅調に推移。 	<ul style="list-style-type: none"> キラルカラムは、中国での販売は減少したものの、米国やインドでの販売が増加し、販売数量は増加。 前年同期に大型スポット案件があったことでキラルカラム用充填剤の販売は減少。 インドでの受託分取サービスが増加。
	化粧品原料 健康食品素材	<ul style="list-style-type: none"> コスメは、インバウンドの増加もあり需要は堅調。 健康食品は、インバウンドの増加もあり需要は好調。 	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品原料、健康食品素材ともに、好調なインバウンド需要を捉え、販売は好調に推移。
スマート	カプロラクトン 誘導体 脂環式エポキシ	<ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体は、自動車塗料用途の需要が堅調に推移しており、主要市場である中国のウレタン需要も回復傾向。 脂環式エポキシは、液晶パネルや電子基板用途など電子材料用途の需要が緩やかに回復。 	<ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体および脂環式エポキシは、需要の回復を確実に取り込み販売数量が増加。
	フォトレジスト 材料 電子材料向け 溶剤 機能フィルム	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場、液晶パネル市場ともに緩やかな回復基調にあり、フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤の需要が増加。 機能フィルムは、中国市場における車載ディスプレイ用途の需要が増加する一方で、電池向け離型フィルムの需要は低迷。 	<ul style="list-style-type: none"> フォトレジスト材料および電子材料向け溶剤は、需要回復に伴う拡販により販売数量が増加。 機能フィルムは、車載ディスプレイ用途の販売数量は増加したものの、電池向け離型フィルムの販売数量が減少。

セグメント別事業概況（2025年3月期 上期）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）
セイフティ	エアバッグ用インフレーター	<ul style="list-style-type: none"> 日系自動車メーカーによる認証不正問題の影響や中国での景気刺激策が不調であることなどにより、自動車生産台数は減少傾向。 	一部日系自動車メーカーの不正問題や中国経済の影響などもあり、インフレータの販売数量は減少。
マテリアル	酢酸	<ul style="list-style-type: none"> 主要誘導品のPTA・VAM用途の需要は引き続き低調に推移。 	酢酸の販売数量はVAMやPTAなど主要誘導品の需要低下や、原料の一酸化炭素プラントの初期トラブルの影響により減少。
	アセテート・トウ	<ul style="list-style-type: none"> 世界のたばこ生産本数は前年度に引き続き横這い水準。 アセテート・トウ需要は堅調に推移。 	アセテート・トウは、一時的な顧客の在庫調整による販売時期のズレなどにより販売数量が減少。
	TAC※	<ul style="list-style-type: none"> 液晶パネル市場は回復傾向に一服感がみられるものの、当社顧客からの需要は安定して推移。 	TACは、競合素材の伸長があるものの、海外フィルムメーカーへの拡販などにより販売は前年同期並み。
	1,3-BG	<ul style="list-style-type: none"> 国内化粧品市場は回復基調であることに加え、海外市場の需要も好調。 	1,3-BGは国内市場の回復傾向や、中国市場への拡販等により販売数量が増加。

※TAC（Tri-acetyl cellulose）： 液晶保護フィルム用酢酸セルロース

セグメント別事業概況（2025年3月期 上期）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の状況（対前年同期）
エンジニアリング プラスチック	POM PBT PPS LCP	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品用途は、日系自動車メーカーの認証不正問題や販売不振による中国・ASEAN地域での生産台数減少の影響を受けたものの、顧客の在庫調整の影響で第1四半期に需要が低下した前年同期と比較して需要が増加。 主に中国におけるスマートフォンやPC向けの需要が増加し、当社の電子デバイス用途の需要も増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用途の需要増加に伴いPOM、PBT、PPSの販売数量は増加。さらに、POMはOA向けや中国での積極的な拡販により産業機器向けが増加し、販売数量が増加。 LCPも電子デバイス需要の回復に伴う拡販により販売数量が増加。

連結貸借対照表

単位：億円		2024年 3月末	2024年 9月末	増減
流動資産		4,095	3,851	△244
	現預金及び有価証券	732	648	△84
	受取手形及び売掛金	1,144	1,003	△141
	棚卸資産	1,825	1,841	+16
	その他	394	359	△34
固定資産		4,297	4,427	+131
	有形固定資産	3,089	3,221	+131
	無形固定資産	108	107	△1
	投資その他資産	1,100	1,100	+0
資産合計		8,392	8,278	△113
負債		4,638	4,355	△282
	有利子負債	3,041	2,877	△164
	その他	1,596	1,478	△118
純資産		3,754	3,923	+169
負債純資産 合計		8,392	8,278	△113

- 総資産減少額113億円のうち、127億円は為替影響。
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資。
- 政策保有株式は上期で6銘柄（内3銘柄全部売却）66億円（24年3末簿価）売却。縮減は計画通り進捗。
- 手元流動性の改善に伴い有利子負債を返済。

単位：億円

		2024/3 2Q	2025/3 2Q	増減
	営業キャッシュ・フロー	492	507	+16
	投資キャッシュ・フロー	△268	△294	△26
フリーキャッシュフロー		224	214	△11
財務キャッシュ・フロー		△281	△240	+41
その他		+51	△13	△64
現金及び現金同等物の増減額		△6	△40	△34
現金及び現金同等物の中間期末残高		929	644	△285

- プラントトラブルの影響など一過性要因があるものの営業キャッシュフローは増加、さらに政策保有株式の売却も進めるも、設備投資額の増加によりフリーキャッシュフローは214億円と前年同期比11億円の減少。
- 手元流動性の改善により、設備投資に関わる長期借入金調達を上回る返済により有利子負債を圧縮。

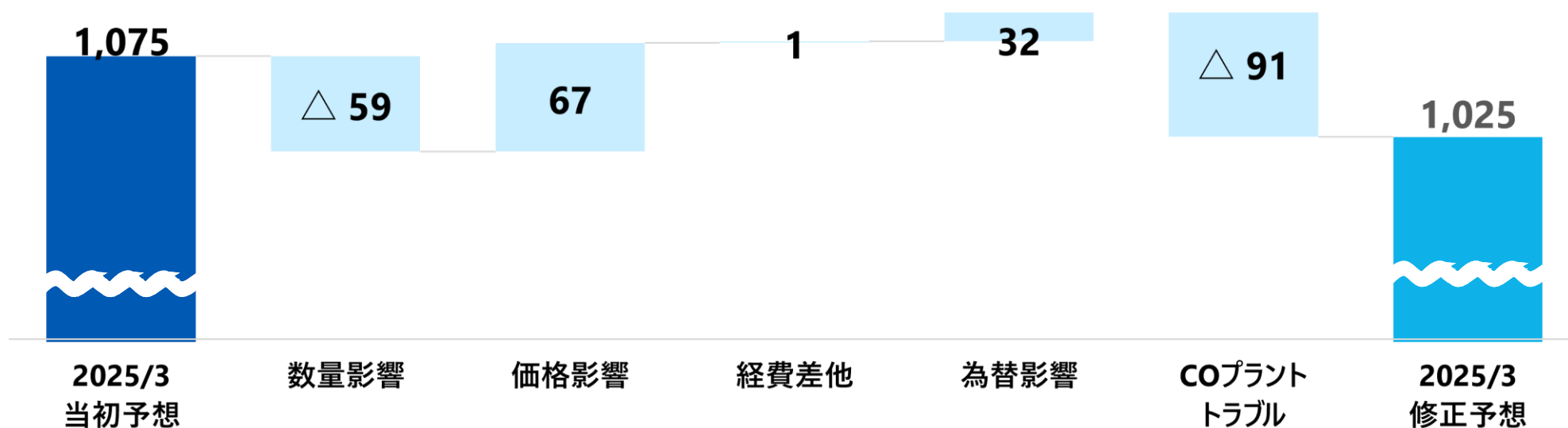
2025年3月期 業績予想



単位：億円	2024/3 実績	2025/3 当初予想	2025/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	5,580	6,100	6,000	+419	+7.5%	△ 100	△1.6%
営業利益	624	650	600	△24	△3.8%	△50	△7.7%
経常利益	684	670	600	△84	△12.3%	△70	△10.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	558	580	510	△48	△8.7%	△70	△12.1%
為替レート USD/JPY	145	145	149				

	2024/3 実績	2025/3 当初予想	2025/3 修正予想
EBITDA	961	1,075	1,025
ROE	17.1%	15.6%	14.3%
ROIC	6.3%	6.4%	5.9%
ROA	7.0%	7.0%	6.1%
EPS (円)	197.56	210.29	184.70

EBITDA増減分析



<業績予想>

- 上期の為替が想定よりも円安で推移したことや、足元の業績動向、製品および原料市況、一酸化炭素プラントの安定運転確立のための計画停止などを踏まえて通期業績予想を見直す。
- ポリプラスチックのPOMおよびLCPの下期からの増産では、中国地域の需要を確実に捉え、また、セイフティ事業の米国拠点の黒字化に取り組むなど、通期業績予想を達成するとともに、来期以降の成長に向けて、既存製品のシェア拡大や新規顧客開拓、新製品開発、品質向上・コストダウンにつながる製法改善に取り組む。
- ポートフォリオマネジメントを推進し、上期に樹脂コンパウンド事業を売却したが、引き続き事業構造改革を進め、下期での損失（特別損失）計上を想定。

<EBITDA増減分析>

- 一酸化炭素プラントの初期トラブルとその対策などが通期91億円（上期55億円、下期36億円）減益要因に。11月に計画停止、来期5月の定修にてトラブルへの恒久的対策を実施し安定運転を確立する。
- 自動車生産台数の減少の影響により数量影響はマイナス。
- コスト上昇分の価格転嫁を進めることで価格影響はプラス。
- 為替レート（USD/JPY）前提 当初予想：145円 ⇒ 見直予想：149円

セグメント別 売上高・営業利益

	売上高						
	2024/3 実績	2025/3 当初予想	2025/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
単位：億円							
メディカル・ヘルスケア	139	150	150	+11	+7.7%	-	-
スマート	338	355	380	+42	+12.4%	+25	+7.0%
セイフティ	956	1,080	1,000	+44	+4.6%	△80	△7.4%
マテリアル	1,822	1,860	1,910	+88	+4.8%	+50	+2.7%
エンジニアリングプラスチック	2,268	2,600	2,500	+232	+10.2%	△100	△3.8%
その他事業	57	55	60	+3	+5.7%	+5	+9.1%
合計	5,581	6,100	6,000	+419	+7.5%	△100	△1.6%

	営業利益						
	2024/3 実績	2025/3 当初予想	2025/3 修正予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
単位：億円							
メディカル・ヘルスケア	8	8	7	△1	△11.5%	△1	△12.5%
スマート	△9	△5	△3	+6	-	+2	-
セイフティ	30	77	52	+22	+73.9%	△25	△32.5%
マテリアル	408	325	295	△113	△27.7%	△30	△9.2%
エンジニアリングプラスチック	183	237	240	+57	+31.1%	+3	+1.3%
その他事業	4	8	9	+5	+113.3%	+1	+12.5%
合計	624	650	600	△24	△3.8%	△50	△7.7%

EBITDA	
2024/3 実績	2025/3 修正予想
18	17
25	27
153	128
517	487
349	352
13	14
1,075	1,025

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映
TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

セグメント別 事業計画（2025年3月期 下期）

セグメント	主要製品	市場環境	当社の計画（対当初計画）・当社の取り組み
メディカル・ヘルスケア	キラル関連製品など	<ul style="list-style-type: none"> キラル関連製品は中国市場は低調なもの、米国やインドなどを中心に堅調な需要が継続する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> キラル関連製品は、インドの受託サービスが引き続き好調に推移し、当初計画並み。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡大市場であるインドでの合成サービス・分析標品販売の堅調な需要を確実に取り込む。 中分子医薬向けのアキラルカラムなど新製品のマーケティング強化。 遺伝子関連事業における営業・マーケティング体制強化。 4月にダイセルメディカルが第二種医療機器製造販売業許可を取得、PharmaJet社と共に世界的な無針注射器市場の立ち上げとアクトランザの国内薬事承認手続き早期完了を目指す。
	化粧品原料 健康食品素材	<ul style="list-style-type: none"> コスメの国内市場はインバウンド需要増加の影響もあり、回復傾向が継続。 健康食品の国内市場はインバウンド増加の影響もあり、堅調に推移する見通し。 	<ul style="list-style-type: none"> コスメは、国内インバウンドによる需要は堅調に推移するも、一部顧客の販売不調があり、販売数量は当初計画を下回る。 健康食品は、インバウンド増加により引き続き好調に推移し計画並み。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 化粧品原料は、BELLOCEA®（真球状酢酸セルロース）の生分解性改良グレード投入に向けて、マーケティングを加速。 健康食品素材は、新製品のアストロホップ®（ホップ由来の腸内代謝物）を販売開始。また、ラクトビオン酸（乳糖由来のオリゴ糖）など既存製品の新たな機能を訴求するためのマーケティングを強化。

セグメント別 事業計画（2025年3月期 下期）

セグメント	主要製品	市場環境	当社の計画（対当初計画）・当社の取り組み
スマート	<p>カプロラクトン誘導体</p> <p>脂環式エポキシ</p>	<ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体は、自動車用塗料向けの需要は安定しており、中国向けウレタン市場などの需要は回復傾向を見込む。 脂環式エポキシは、液晶パネル及び電子材料向けの需要が、徐々に回復する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体は、拡大市場であるEV向け材料や保護TPUフィルム用途にマーケティングを注力し、販売数量は当初計画より増加。脂環式エポキシは、OLED封止材向け新規製品の上市や特殊エポキシの拡販などにより販売数量は当初計画より増加を見込む。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体は、拡販を実施。脂環式エポキシは、絶縁体用途などの高付加価値ビジネスに参入し拡販を実施。
	<p>フォトレジスト材料</p> <p>電子材料向け 溶剤</p> <p>機能フィルム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場は緩やかに回復を継続。 機能フィルムは、中国でのEV需要（車載ディスプレイ用途）が好調なものの、離型フィルムは、電池用途の需要が低迷。 	<ul style="list-style-type: none"> フォトレジスト材料や電子材料向け溶剤は、半導体市場の緩やかな回復や中国や韓国、台湾向けの拡販などにより販売数量は当初計画より増加を見込む。 機能フィルムは、好調な中国でのEV需要（車載ディスプレイ用途）や、低調な電池用途以外（離型フィルム）での拡販を進め販売数量は当初計画より増加を見込む。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子材料向け溶剤は、拡販を進めシェア拡大を狙う。 フォトレジスト材料のArFは顧客数や採用数を伸ばし、開発中のEUVは、技術確立により実績化に取り組む。
セイフティ	エアバッグ用インフレーター	グローバルの自動車生産台数は期初想定並みだが中国市場における日系自動車メーカーの伸び悩みが見られる。	<ul style="list-style-type: none"> インフレーター販売数量は、中国市場の成長率鈍化などにより販売数量は当初計画より減少を見込む。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> コストダウンの積み増し、米国拠点の収益性改善に努めるとともに、新規プログラムの獲得を進める。 米国拠点は、第4四半期に黒字化の計画。

セグメント別 事業計画（2025年3月期 下期）

セグメント	主要製品	市場環境	当社の計画（対当初計画）・当社の取り組み
マテリアル	酢酸	<ul style="list-style-type: none"> PTA・VAMや液晶ディスプレイ・電子材料用途の需要は低迷が継続。 酢酸市況も引き続き軟調に推移。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA・VAMは中国の需要が低調なことに加え、11月に一酸化炭素プラントの計画停止を実施することにより、販売数量は対当初計画で減少。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 酢酸は安定供給体制を確立し、海外市況の影響を受けにくい国内の顧客向けの拡販アクションを実施。
	アセテート・トウ	<ul style="list-style-type: none"> 世界のたばこ生産本数は前年度から横這いを見込むも、アセテート・トウ需要は加熱式たばこ用の需要増により堅調に推移する見通し。 	<ul style="list-style-type: none"> アセテート・トウは、堅調な需要を受け、投資なき増産による拡販を計画通り進め、当初計画並みの販売数量を見込む。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> アセテート・トウは、対前年度で販売数量を増加させるべく既存設備をフル活用して需要に対応。
	TAC※	<ul style="list-style-type: none"> 液晶ディスプレイ需要は2024年7月から低調となり下期も低調継続を見込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 液晶ディスプレイ需要は低調継続を見込むも、海外フィルムメーカーへの拡販などシェアアップに取り組み当初計画並み。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製法改善による品質の向上や木材パルプ原料の使用による競争力強化。
	1,3-BG	<ul style="list-style-type: none"> 国内市場はインバウンド増加の影響もあり、回復傾向が継続し、海外需要も好調。 	<ul style="list-style-type: none"> 1,3-BGは、中国市場や工業用途を含めた欧米市場への拡販により、販売数量は対当初計画並み。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ブランド力でシェアを堅持するとともに、海外市場においては、エリア別のターゲット用途・顧客を見極め拡販を進める。

※TAC（Tri-acetyl cellulose）：液晶保護フィルム用酢酸セルロース

セグメント	主要製品	市場環境	当社の計画（対当初計画）・当社の取り組み
エンジニアリング プラスチック	POM	自動車部品用途は、日系自動車メーカーが中国およびASEAN地域での生産台数が大きく減少見込み。反面中華系自動車メーカーの生産は当初予想を大きく上回り、グローバル自動車生産台数は、当初予想並み。	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品用途は日系自動車メーカーの生産台数減少により販売数量は当初計画より減少の見込み。 POMは中国での需要が旺盛で上期に在庫を取り崩し、また中国プラントの移転に伴い9月-10月は操業停止期間であるため、下期は在庫調整を実施し、当初計画よりも減少の見込み。
	PBT PPS LCP	スマートフォンやパソコンなどの電子デバイス、サーバーなど通信インフラ設備関連の生産が回復。	<ul style="list-style-type: none"> LCPは、電子デバイス関連需要の回復などにより販売数量はほぼ当初計画通り。 <p>【当社の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> POM・LCP増設プラントが下期に稼働する計画。増設キャパシティを活かした拡販および中国市場のさらなる開拓に向けて現地の開発・マーケティング体制を強化。 中国における非日系自動車顧客獲得のため市場開発体制の強化。 国内外のポリプラスチックスグループ生産拠点へのダイセル式生産革新展開により、コストダウンと生産効率化を加速。

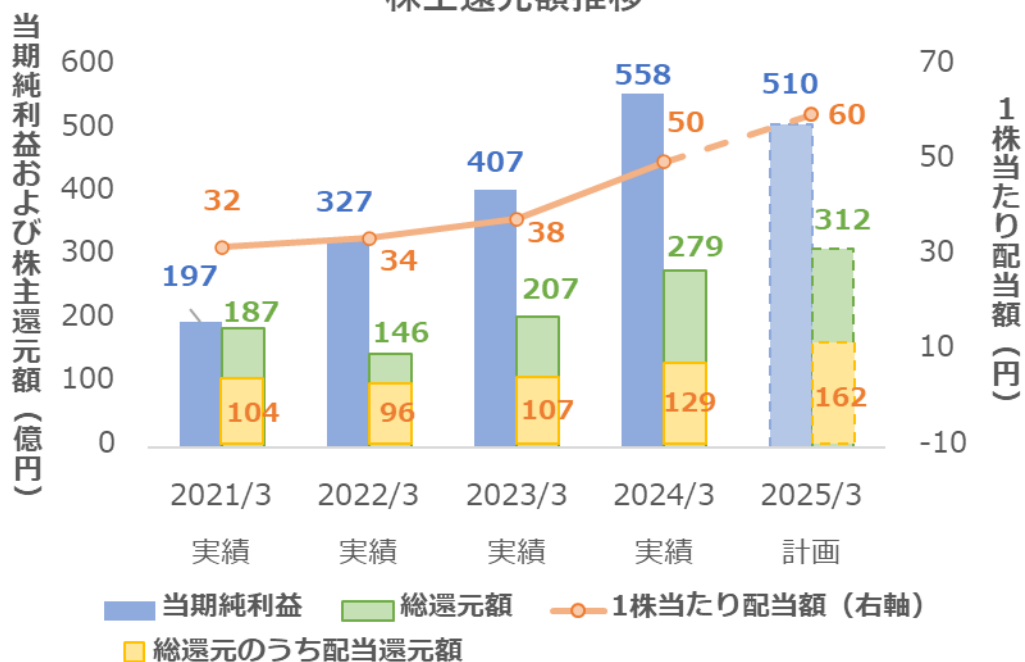
実質的な資金創出力向上を背景に株主還元を強化

プラントのトラブル影響など一過性損失を除くと期初計画比増益、かつ資金創出力は着実に向上
 これらを背景に前回発表より増配額を上積み、合わせて自己株式取得も行き株主還元を強化
 (※2025年3月期より「総還元性向40%以上」に加え「DOE4%以上」を指標に追加)

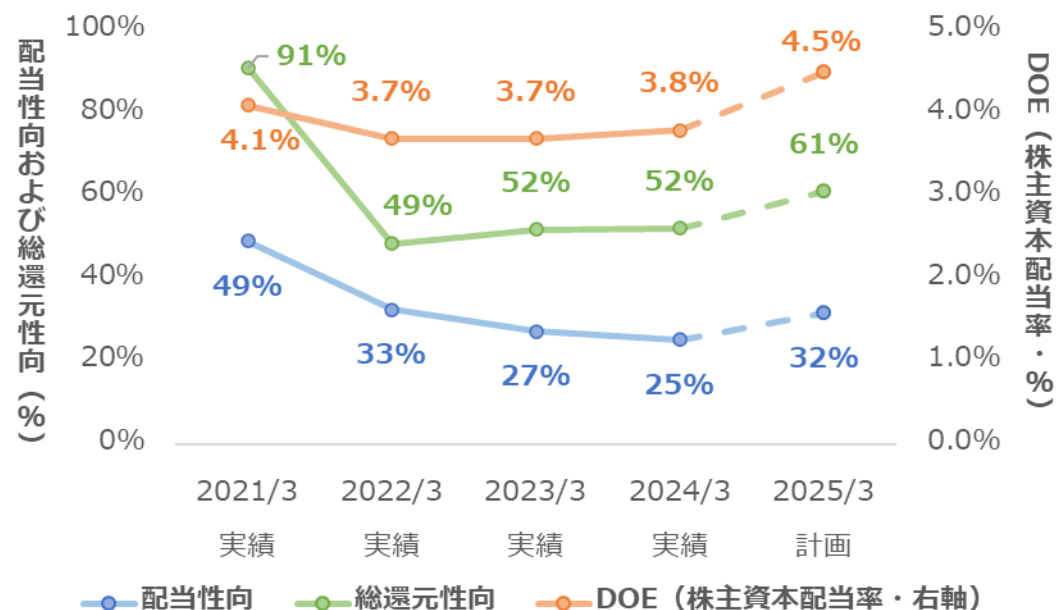
2025年3月期

- ・ 中間配当 **30円**／株 (前期比 **5円**増配、前回発表比**3円**増配)
- ・ 期末配当計画 **30円**／株 (前期比 **5円**増配、前回発表比**2円**増配)
- ・ 年間配当計画 **60円**／株 (前期比**10円**増配、前回発表比**5円**増配)
- ・ **上限150億円** (1,200万株) の**自己株式取得**を決定 (取得期間：2024年11月～2025年3月)

株主還元額推移



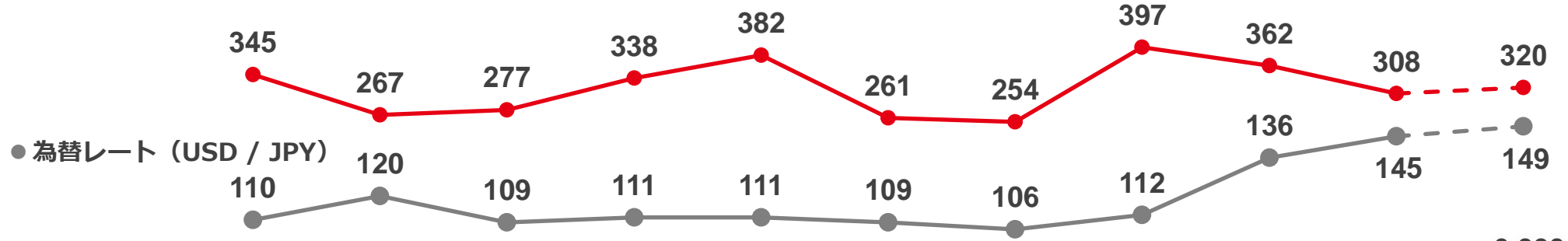
株主還元指標推移



Appendix

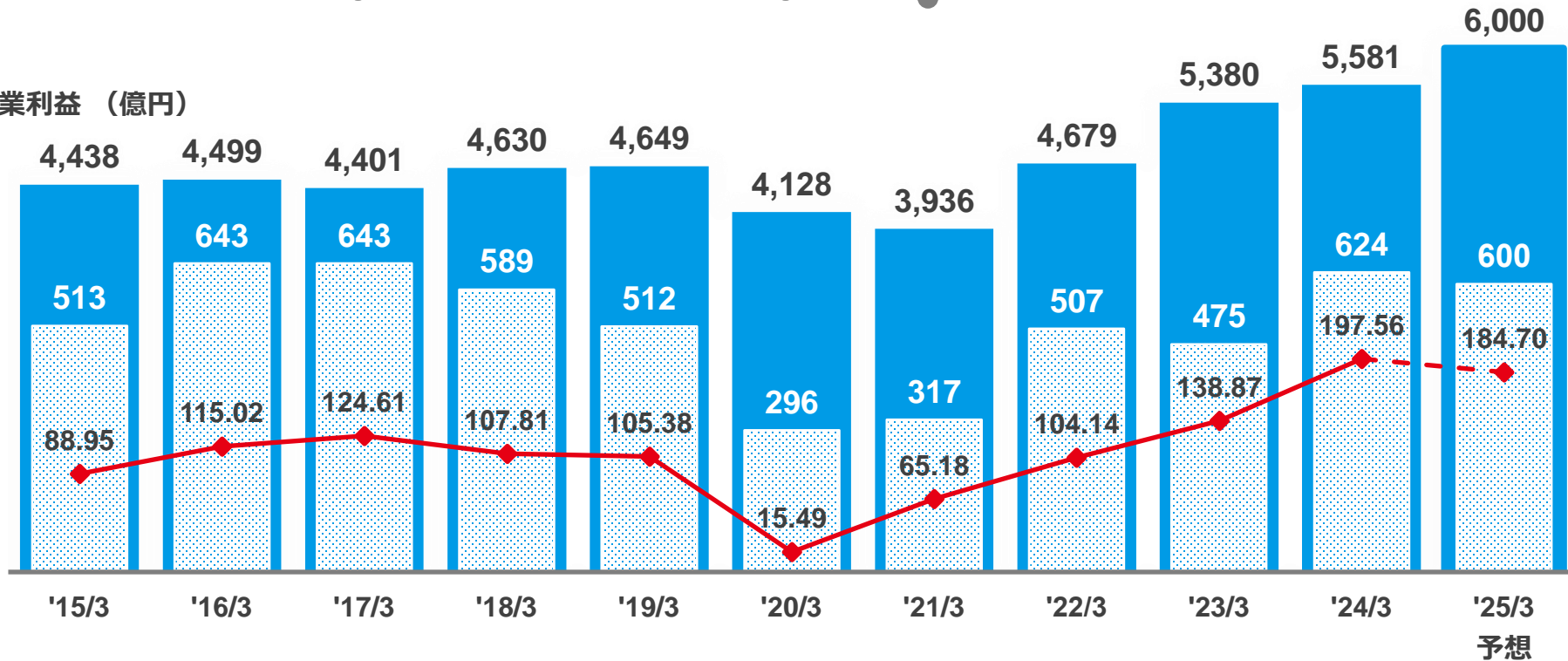
売上高・営業利益・EPSの推移

●メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)



■売上高・□営業利益 (億円)

◆EPS (円)



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円	売上高					
	2024/3				2025/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	34	35	36	34	35	37
スマート	84	84	83	87	103	93
セイフティ	224	247	256	229	233	238
マテリアル	452	439	433	499	445	440
エンジニアリングプラスチック	503	584	608	573	627	618
その他事業	12	13	15	16	13	16
合計	1,308	1,402	1,433	1,438	1,456	1,441

単位：億円	営業利益					
	2024/3				2025/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	3	2	4	△1	1	1
スマート	1	0	△4	△6	5	△3
セイフティ	△7	5	25	6	△0	14
マテリアル	86	112	93	116	91	53
エンジニアリングプラスチック	7	54	60	62	77	75
その他事業	△0	2	1	2	1	2
合計	91	175	179	179	175	141

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映
 TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

セグメント別 営業利益 (対 前年同期 増減・要因分析)

単位：億円		営業利益	
		分析	増減
メディカル・ヘルスケア	数量影響	△3	インバウンド需要に伴うヘルスケアでの販売数量増加 (+)、キラル関連製品の販売数量減 (△)
	価格影響	+1	為替影響
	その他	△2	販売数量増加に伴う経費増加
スマート	数量影響	+22	電子材料関連市場の需要回復に伴う過酢酸誘導体製品やフォトレジスト関連の販売数量増加
	価格影響	△16	販売価格是正に努めるも原料価格が上昇
	その他	△5	販売数量増加に伴う経費の増加や在庫処分費用
セイフティ	数量影響	△7	日本・中国・米国でのインフレータの販売数量が減少
	価格影響	+6	為替影響
	その他	+16	北米の生産拠点の統合に伴う経費減少
マテリアル	数量影響	△66	一時的な出荷時期ズレに伴うアセテート・トウの販売数量減少や、一酸化炭素プラントのトラブル影響
	価格影響	+24	為替影響
	その他	△14	一酸化炭素プラント稼働による償却費の増加 (△) や在庫影響 (+)
エンジニアリングプラスチック	数量影響	+56	自動車部品関連の需要回復やPOMの拡販による販売数量増加
	価格影響	+19	原料価格低下に伴う販売価格低下 (△) と為替影響 (+)
	その他	+15	前年同期にマレーシア拠点の大型定期修繕費用などがあったことによる経費減少、在庫影響

セグメント別 事業概況（対 上期予想）

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">・ ライフサイエンス事業のキラルカラムは、米国やインドでの需要が好調に推移したものの、中国拠点での販売が減少したことにより計画を下回った。・ ヘルスケア事業の化粧品原料は一部顧客の販売不調により販売数量は減少。健康食品素材は、一部製品の販売が前期へ前倒しとなったものの、大手顧客の販売が好調なのを受け販売数量は計画より増加。
スマート	<ul style="list-style-type: none">・ カプロラクトン誘導体は、自動車用塗料用途が堅調で、中国向けのウレタン需要も堅調なことから販売数量が計画を上回った。・ 脂環式エポキシは、液晶パネル用途や電子材料用途の需要回復が想定を上回り、販売数量も計画を上回った。・ フォトレジスト材料は、需要回復に伴う拡販により販売数量は計画を上回った。・ 電子材料向け溶剤は、需要は緩やかな回復基調にあるものの、一部国内/海外顧客向け販売数量が減少し、計画を下回った。・ 機能フィルムは、主に中国EV向けの需要が増加し車載用ディスプレイ用途の販売数量は計画を上回ったものの、電池用途の離型フィルムの販売数量は計画を下回った。
セイフティ	<ul style="list-style-type: none">・ 日系自動車メーカーの認証不正問題や、中国政府による景気刺激策不調の影響などにより、インフレータの販売数量は計画を下回った。
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">・ 酢酸の販売数量はVAMやPTAなど主要誘導品の需要が低調に推移したことや、一酸化炭素プラントの初期トラブルにより計画を下回った。酢酸市況は想定よりも高い水準で推移。・ アセテート・トウは、堅調な需要が継続しているものの、一時的な期ズレの影響により販売数量が計画を下回った。・ TACは、液晶パネル市場の回復は一服したが顧客需要は安定しており、計画並み。・ 1,3-BGは、国内化粧品市場が回復基調であることに加え、海外への拡販にも取り組み、販売数量は計画並み。
エンジニアリングプラスチック	<ul style="list-style-type: none">・ POMの販売数量は、ディストリビュータを通じた拡販アクションなどにより計画を上回ったものの、日系自動車メーカーの認証不正問題や中国市場での苦戦の影響により、PBT、PPSの販売数量は計画を下回った。・ LCPは、スマホなどの電子デバイス需要が回復傾向にあり、販売数量は計画を上回った。

設備投資額

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 上期実績 (※1)	2025/3 予想 (※1)
メディカル・ヘルスケア	87	10	27	22	19	19	5	10
スマート	20	29	42	42	26	30	7	30
セイフティ	88	77	90	90	94	94	54	140
マテリアル	116	188	86	91	174	169	77	100
エンジニアリング プラスチック	71	74	306	306	457	457	236	470
その他事業・全社	14	30	12	12	4	4	1	10
合 計	396	408	563	563	775	775	379	760

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

減価償却費

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 上期実績 (※1)	2025/3 予想 (※1)
メディカル・ヘルスケア	14	14	28	15	11	11	5	10
スマート	16	20	27	27	29	31	13	30
セイフティ	47	50	65	65	71	71	35	75
マテリアル	90	90	97	110	131	129	97	190
エンジニアリング プラスチック	69	70	86	86	82	82	42	110
その他事業・全社	22	25	6	6	6	6	3	5
合 計	258	269	308	308	330	330	195	420

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 上期実績 (※1)	2025/3 予想 (※1)
メディカル・ヘルスケア	21	19	22	28	24	24	13	27
スマート	27	36	42	42	40	48	27	49
セイフティ	51	56	63	57	60	60	37	70
マテリアル	16	15	28	28	38	31	18	35
エンジニアリング プラスチック	35	37	61	61	68	68	37	76
その他事業・全社	46	45	3	3	3	3	2	3
合 計	195	207	219	219	234	234	132	260

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

2025年3月期業績予想

		2025/3 当初予想※			2025/3 修正予想			増減
		上期予想	下期予想	年間	上期実績	下期予想	年間	
単位：億円								
	メディカル・ヘルスケア	70	80	150	72	78	150	-
	スマート	165	190	355	196	184	380	+25
	セイフティ	520	560	1,080	471	529	1,000	△80
	マテリアル	910	950	1,860	885	1,025	1,910	+50
	エンジニアリングプラスチック	1,260	1,340	2,600	1,245	1,255	2,500	△100
	その他事業	25	30	55	28	32	60	+5
売上高		2,950	3,150	6,100	2,897	3,103	6,000	△100
	メディカル・ヘルスケア	1	7	8	2	5	7	△1
	スマート	△5	0	△5	2	△5	△3	+2
	セイフティ	32	45	77	13	39	52	△25
	マテリアル	163	162	325	143	152	295	△30
	エンジニアリングプラスチック	126	111	237	152	88	240	+3
	その他事業	3	5	8	3	6	9	+1
営業利益		320	330	650	316	284	600	△50
経常利益		335	335	670	307	293	600	△70
親会社株主に帰属する当期純利益		300	280	580	321	190	510	△70
(参考) 為替レート USD/JPY		145	145	145	153	145	149	

※ 2025年3月期当初予想は、2024年5月9日発表値

		2024/3 実績		2025/3 計画		2025/3 実績+修正計画	
		上期	下期	上期	下期	上期 (実績)	下期 (修正計画)
為替レート (USD/JPY)		141	148	145	145	153	145
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	295	322	320	320	332	320
	原油 ドバイ (USD/bbl)	82	82	90	90	82	85
	国産ナフサ (円/kl)	65,550	72,800	71,000	71,000	78,000※	72,000

※2024年10月時点の予想

マテリアルセグメント、スマートセグメントの組織再編

スマートセグメントにおけるM&A後のシナジー促進、人財育成などをより迅速かつ効果的に推進するため、組織再編を2024年4月1日付で実施。また、同日付で、既存事業同士のシナジー効果最大化を目的に、マテリアルセグメントの脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体をスマートセグメントへ、光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）をマテリアルセグメントへ移管するとともにマテリアルセグメントの組織再編を実施

セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ディスプレイ/オプト	液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、機能フィルム、オプティカルレンズ
	IC/半導体	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス
マテリアル	アセチル	酢酸、酢酸誘導体（酢酸エチル、無水酢酸など）、酢酸セルロース、アセテート・トウ、ケテン誘導体、エチルアミン
	ケミカル	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、1,3-BG



セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
	アドバンスドテクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス、機能フィルム、
マテリアル	アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
	ケミカル	液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチルなど有機溶剤、ケテン誘導体、エチルアミン

- **本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。**

- **ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。**
 - ・ **本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。**
 - ・ **いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。**